

	ギター礼賛	AAFC 例会資料
		2013.3.10
		川俣 国大

- ◆ **ギター礼賛** — 有名な音楽家たちがギターに寄せた礼賛の言葉)
- ◆ オークストラは大きなギターである。 《ベートーヴェン》
- ◆ ギターは素晴らしい楽器であるが、それを理解している人は少ない。 《シューベルト》
- ◆ 優れたギターほど美しいものは他に考えられない。 《ショパン》
- ◆ ギターは小さなオーケストラである。 《ベルリオーズ》
- ◆ ギターは一番美しい楽器だが、一番難しい楽器である。 《ドビュッシー》
- ◆ それは表情豊かなクラブサンである。

プログラム

- **※ 川の流れのように** (見岳明～福田進一編曲) 福田進一 16:00

 ロドリゴ～小麦畑で～福田進一 語りと演奏。フレスコバルデイ～アリアと変奏～渡辺紀彦。
 コスト～練習曲7番～稲垣稔。
- **※ ロマンズ** (作者不詳・スペイン伝承曲) 山下和仁 2:12

 クラシックギター一本のみという音楽の効果、とりわけ主題曲の魅力によっても人々を感動させた。日本でもスペインのギター奏者イエペスがギターブームを起こした。
- **※ コンポステラの歌** (作者不詳・山下和仁編曲) 山下和仁 3:48

 サアンチアゴ・デ・コンポステラの中心地にある聖ヤコブの修道院が名高く中世以来の巡礼地として全ヨーロッパから人々を集めた聖地である。この歌はこの地に伝わる歌を山下和仁が編曲したもので、淡々と語る美しく又、哀感にあふれた作品になっている。
- **※ アルハンブラ宮殿の思い出 (タレルガ)** 山下和仁 3:22

 1852～1909年・タレルガは近代音楽の父と呼ばれ演奏、作曲、編曲、教授、等多くの面を通じて活躍した。1896年にタレルガが実際にアンダルシアの古都グラナダを訪れ、その昔14世紀にモーロ人の王が建てたアルハンブラを見た時の感動から作曲された。トレモロによる表現は庭園にある噴水の音だともいう。
- *** 前奏曲 (古典組曲1～5) サントル・ソラ** 山下和仁 4:36

 1904年に生まれたソラは1913年以来ウルグアイで作曲家として又、教育家として活躍している。ギターの作品も数多く作られておりこの前奏曲はこの中の1番にあたる。

* 朱色の塔 (アルベニス) 斉藤明子

4 : 0 7

1860年～1909年のこの天才が生まれていなければ、近代スペインの民族主義派はありえなかったであろう。彼は自らギターを弾かずもっぱらピアノの為に作曲したが、今日の作品は、ギター用に編曲されていなかったら、残っていなかったであろう。ギタリストにとっては欠けがいのない財産となっている。このピアノ曲全12巻の最後におかれていたもので、愛着を寄せていた土地グラナダにある朱色の塔の面影を偲んだ作品といわれた。この曲を編曲した人はミゲール・リョベイトである。

* アメリアの遺言 (カタロニア民謡) 斉藤明子

4 : 0 7

王妃アメリアの臨終の枕元に届けられたカーネーションの花束が継母の計らいで毒がしこまれていることを気づいたアメリアは、我が夫と情を通じていたことも知っていた。遺書には、全ての財産を分配の詳細が書かれてあったが、その最後には私の夫にについては継母には「これからはいつでもご自由にどうぞ・・・」と書かれてあった。

* 盗賊の歌 (カタロニア民謡) 斉藤明子

1 : 1 6

若い頃は、馬車を泊めて積荷を奪ったり、幾人もの若い娘を騙したことやら、その伊達男たちもついに後手に縄を打たれて引かれながら、年貢の納め時が・・・伊達男はこんな小唄を口ずさむ「さらば紫のカーネーションよ、さらば夜明けの明星よ！」

* 聖母の御子 (カタロニア民謡) 斉藤明子

2 : 2 0

カタロニアのみならず、スペイン中によく知られたクリスマスの歌で、聖母マリアと幼いイエスに唄いかけるのはスペインのクリスマスキャロルの特色だ。それにしてもなんと美しいメロディであろう。とても癒されます。

以上